



第1回 中学生・高校生英語俳句コンテスト開催！



第1回コンテスト受賞者

【中学生自由俳句部門】

- 学長賞 谷 樹里亜 (桜丘養護学校3年)
- 南日本新聞社賞 前里 愛宝 (加世田中学校3年)
- 優秀賞 徳留 叶舵 (伊集院北中学校3年)
- 審査員特別賞 豊山 愛乃 (赤徳中学校3年)
- 同 Minatozaki Shiho (武岡台養護学校中学部1年)
- 同 横山 幸志郎 (重富中学校3年)

【中学生写真俳句部門】

- 学長賞 下入 菜那 (河頭中学校3年)
- 南日本新聞社賞 吉元 実佑 (天保山中学校3年)
- 優秀賞 中間 愛結 (川内北中学校3年)
- 審査員特別賞 池山 七姫 (天保山中学校3年)

【高校生自由俳句部門】

- 学長賞 肝付 浩太郎 (鹿児島中央高校1年)
- 南日本新聞社賞 並木 花萌 (大島北高校2年)
- 優秀賞 Uchimura Tsukino (志布志高校3年)
- 審査員特別賞 Ichimaru Yukiku (志布志高校3年)

【高校生写真俳句部門】

- 学長賞 高城 龍之介 (鹿児島情報高校3年)
- 南日本新聞社賞 久永 暁暖 (奄美高校1年)
- 優秀賞 清川 直哉 (松陽高校2年)
- 審査員特別賞 下新原 鈴夏 (鹿屋中央高校3年)
- 同 落合 結奈 (松陽高校2年)

【学校賞】

- 重富中学校, 川内北中学校, 川内南中学校, 帖佐中学校, 天保山中学校, 中種子中学校, 大島高等学校, 鹿児島中央高等学校



△中学生自由俳句部門の学長賞を受賞した谷さん



△高校生自由俳句部門の学長賞を受賞した肝付さん



△8校に学校賞が贈られた

本学は、鹿児島県内の中高生対象の英語俳句コンテスト（自由俳句部門・写真俳句部門）を今年度初めて開催しました。グローバル社会の進展に欠かせない英語教育の推進と日本文化を融合させた英語俳句の魅力を感じてもらおうと企画したところ、予想をはるかに超える県内 48 校から、合計 2,446 句の応募をいただきました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

11月20日に審査会が行われ、右のとおり受賞者 19 人と学校賞 8 校が決定しました。また、12月18日には学内で表彰式が行われ、受賞者や関係者ら約 60 人が出席。受賞者一人一人に学長から賞状と副賞が手渡されました。

中学生自由俳句部門の南日本新聞社賞を受賞した前里愛宝さん（加世田中学校 3 年生）は「意識したのは読み手に何を伝えるかということ。日頃から感じている母への感謝を世界中の人に伝えたいと思い作成した。これからも色々な人と俳句の良さを共有していきたい」と作品に込めた思いと受賞の喜びを語りました。

英語俳句の普及に努め、今回の審査を担当した国際文化学部のマクマレイ・デビッド教授は、「これからも英語俳句を楽しんで、また素晴らしい俳句を作ってください」と受賞者のみなさんへメッセージを送りました。

また、表彰式では、コロナウィルス感染対策を行ったうえで、マクマレイ教授のゼミ生 5 人が企画した写真俳句を用いたクイズイベントも行われ、大いに盛り上がりました。

- 第一回審査員
- 本坊 弓子 (南日本新聞社文化生活部 副部長)
- 吉原 宇勇 (鹿児島県教育庁高等教育課 指導主事)
- 別枝 昌仁 (鹿児島県教育庁義務教育課 主任指導主事)
- 大久保 幸夫 (本学学長)
- 千々岩 弘一 (本学副学長・産学官地域連携センター長)
- 表 正幸 (本学経済学部教授)
- 森 孝晴 (本学国際文化学部教授)
- 小林 潤司 (本学国際文化学部教授)
- マクマレイ デビッド (本学国際文化学部教授)
- 福島 豪 (本学福祉社会学部准教授)



△審査員講評



△英語俳句の理解を深める学生企画のクイズイベント



△本コンテストの企画・運営に携わったマクマレイ教授とゼミ生



観光創生アイデアソンで最高賞受賞！



県内の学生がグループワークを通じて、地元企業が抱える街づくりや観光の課題について解決策を提案するイベントが行われ、本学の学生3名が参加しました。このイベントは鹿児島銀行の主催で、「私たちが変える！かごしまの観光創生アイデアソン」と銘打って4回に渡って行われ、最終日の12月18日にはプレゼン発表が鹿児島銀行本店別館ビルでありました。

6社の企業が参加し、最優秀賞に選ばれたのは、経済学科3年の嶋児穂高さんがリーダーを務めた株式会社島津興業チーム。観光地である仙巖園の現状をデータで分析し、課題である若者を集客するために、薩摩藩に伝わった示現流とAR(拡張現実)を融合したデジタルスポーツを提案しました。嶋児さんは「データに基づいた提案をすることでプレゼン内容に説得力を持たせることができました。企業の方と話す機会をいただき、貴重な経験になった」と喜びを語りました。

また、経営学科3年の西川晏那さんのANAあきんど株式会社チームは、ネクストイノベーション賞を受賞。西川さんは「グループのメンバーで様々な意見を出し合い、満足できる内容に仕上げることができた。このアイデアが企業の企画の参考になるとうれしい」と話し、グッドパフォーマンス賞を受賞した南国交通チームの経済学科3年の松元友作さんは、「コロナ禍で思うようにインターンシップができなかった。課題解決のフィールドワークで、プレゼン発表まで経験することができて自信になった」と成果を実感している様子でした。



クリスマス前にリース作りに挑戦！



クリスマスを前に、コットンを使ったリース作りのイベントが学内で行われました。このイベントは「綿花栽培を通じたSDGsの実践的学習機会の創出」事業の一環で、このプロジェクトに取り組むIUKコットンクラブのメンバーが企画し、学生と教職員、地域住民の約30人が参加しました。

学内で育てた白や茶色のコットンのほかに、キャンパス内の森で集めたどんぐりや松ぼっくり、100円

ショップで揃えたオーナメントなどを利用し、思い思いの作品を仕上げました。クラブメンバーの江川野唯香さん(経営学科4年)は、「コットンと一緒に自宅の庭にあった実も飾ってみた。イメージした作品ができてうれしい」と仕上がりに満足した様子。友達に誘われて参加した伊集院慶孝さん(経済学科4年)は、「実際に作ってみると楽しく、地域の方を巻き込んでSDGsを考える企画は魅力的だと思う」と話しました。

